

名古屋大学  
**国語国文学**  
**103**

2010年11月

光源氏の女人哀悼表現における閻怨の情 — 「塵積もりぬるとこ」を中心に ……	内藤 英子 (1)
『源氏物語』における産死 — 母と子の背負う罪 — ……	吉村 悠子 (17)
『源氏物語』起筆に関する大斎院説話について ……	東 望歩 (33)
延慶本『平家物語』における小督像 ……	横山 知恵 (49)
山崎俊夫『童貞』論 — 「美しき弱者」の「性」と「生」 ……	山田健一朗 (65)
「日本回帰」という虚構 — 浅野晃の転向を手がかりに ……	廣瀬 陽一 (81)
ラムと終助詞カの接続関係に関する一考察 ……	小出 祥子 (95)
ヲ／ニ格両用型感情動詞の諸特徴について ……	松野 美海 (228)
ラレル文多義解釈の成立条件	
— 思考動詞主体 (経験者)・格表示・話し手の相関 — ……	高橋芽衣子 (212)
「です・ます」+終助詞「よ／ね／な／か」の機能	
— 場面条件と言語形式における「聞手の存在」— ……	加藤 淳 (194)
「{この／その／あの} システム」文における名詞句の性質と	
指示詞「この／その／あの」との相関関係 ……	長澤 理恵 (176)
日本語の五十音図とシンハラ語の音図 (ホーディヤ) の比較対照研究 ……	Attanayake priyathika (160)
中世末期のアラ系感動詞 — 各形式の成立と定着に関する試論 — ……	深津 周太 (142)
江戸川乱歩『芋虫』論 ……	ニライ・チャルシムシエウ (126)
書評 田島 優著『漱石と近代日本語』 ……	山本いずみ (229)
田中喜美春著『古今集改編論』 ……	高田 祐彦 (237)
新刊紹介 ……	(245)
高木 徹・金 銀珠・広瀬正浩・眞野道子・李 明喜・玉田沙織・水川敬章・内田智子	

名古屋大学  
**国語国文学会**

## 編集後記

猛暑の中で編集を終えた会誌百三号をお届けします。

今回の論文は、日本文学関係が七本、日本語学関係が七本です。書評や新刊紹介や彙報も加えて、会員による意欲的で活発な活動をご覧ください。日本文学と日本語学に加えて、比較人文学や日本文化学との交流も、それぞれの独自性をふまえた成果を示しつつあります。

長らく学会の事務などを支えてくださった楸原千鶴さんが、文学研究科の籍を離れて、全学の男女共同参画室へと移ることとなりました。会員の皆様それぞれの動向も多様な時代となりましたが、その基礎としての学会活動への積極的な参加をあらためてお願い申し上げます。教育と研究との結合もあらためて問うべきであると思います。

(高橋 亨)

名古屋大学国語国文学 第百三号

印刷 平成二十二年十一月十日

発行 平成二十二年十一月十日

編集 名古屋市千種区不老町

名古屋大学文学部内

名古屋大学国語国文学会

(代表) 高橋 亨

(振替) 00860-0-19333

TEL (〇五二) 七八九一二二四二

内線二二四二

印刷所

名古屋市瑞穂区苗代町二九一二〇

株式会社 アイコー社

TEL (〇五二) 八二二一九五一